

拝啓 寒かった冬もようやく終わり、早や3月下旬となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。今年は梅の花が2-3週間も開花が遅れましたし、近所の公園のつくしが出てくるのも遅れています。春を告げる白い花こぶしも桜も、開花時期が遅れるのでしょうか。

今月は、モーク先生の第11回目ですが、モーク先生と小西芳之助先生の往復書簡、石館守三先生への手紙、藤田昌直先生への手紙などです。手紙は、パウロの手紙が示すように、大切なものです。私は、昔イギリスに留学していた頃、ロンドンの下宿で、毎朝8:30頃郵便の配達があり、日本からの郵便が、朝食のテーブルに置かれていたのが楽しみでした。手紙をもらうためには、手紙を書かなければならない、ということに気づいて、それ以来手紙をせっせと書くようになりました。また、私は、郵便を絵葉書で送ることが多いのですが、これは元内務省の大先輩の飯沼一誠さんが、いつも絵葉書でご返事を下さっていたことから学びました。

3月は、南原繁先生の伝記（題は『南原繁の生涯 信仰・思想・業績』となる予定です）の最終的な原稿の整理で、根をつめて作業をしました。写真を30枚も入れて頂けるので、写真のスキャン（パソコンへの取り込み）もしました。3月14日、写真も含めて、原稿を教文館に提出致しました。

3月27日に鳴門にある大塚国際美術館を訪ねたあと、南原先生のふるさと、引田の民宿に泊まり、3月28日に、先生の生家から旧制大川中学校跡まで、通学路を往復歩くことにしています。往復22キロ、片道3時間ほどの道のりです。南原研究会の会員の同行を呼びかけたところ、3人も参加して下さり、4人で歩きます。3月20日は、トレーニングのために、丹沢の塔が岳に登って参りました。

それから、私は江古田童謡唱歌の会に入っていて、童謡唱歌を15年ぐらい歌ってきましたが、その会が、世話役の皆様の高齢化で、閉じることになりました。それで、有志と6月から新しい童謡の会を始めることにして、準備を始めています。会を始めることには、いろいろな障害も多いのですが、努力すれば万事がうまくいく、という信念のもとに、スタートを切りたいと願っています。

春になれば、気持ちもすっかり新しくなることでしょう。どうぞ皆様もお体ご自愛ください。

平成24年3月23日

山口周三

エンカウンターのお読者各位